

# 新千葉新聞

新千葉新聞社

T292-0067  
水更津市中央2-10-3  
水電 23-3849(本社)  
FAX 23-1684  
E-mail shinchiba@shinchiba.co.jp  
編集兼印刷兼発行人  
石井 伸 江

総合不動産専門店



**epm不動産**  
TEL 036-98-6300

## 廃アルミで水素発電を

### パトナーシップ契約を締結、説明会 三日月 アルハイテック㈱と

【世界初】廃アルミを資源としたグリーンな水素発電の事業化に向けて、鋳水テック㈱(代表取締役社長・小高芳宗、本社・木更津市北浜町)と、アルハイテック㈱(代表取締役社長・水木伸明、本社・富山県高岡市)は



パトナーシップ契約締結式・事業説明会

株式会社アルハイテック

今日(二十六日)、パトナーシップ契約を締結した。これは両者が協力して、世界初のグリーンな水素発電システムを構築し、化石燃料に代わらないサステナブル(持続可能、維持できる)なリゾート事業に

おけるロールモデル(規範となるもの)とするべく、二〇二六年の稼働を目指すもの(以下同事業)は、「世界的なサステナブルリゾート化計画」を掲げる鋳水テック㈱と、廃アルミ由来のグリーンな水素エネルギーで、世界初を目指すアルハイテックが、オーガニックシティを掲げる木更津市(市長・渡辺芳邦)や、廃アルミ調達の協力する㈱U・I。(代表取締役・原圭司、本社・東京都大田区)などと、回収したアルミ付き容器やアルミ箔、工場などに余剰する低品位な廃アルミを、アルハイテックの水素製造装置を用いて、グリーンな水素で発電する電力として活用する。さらに副産物であるグリーンな水酸化アルミは、地域の工業原料として活用するなど、資源循環社会の一翼を担う計画である。

パトナーシップ契約締結式では、小高社長と水木社長が契約書に署名して締結。フォトセッションに続き、小高社長は挨拶で、同ホテルが推進しているSDGsパークをはじめ様々な事業展開を紹介する中で、廃アルミを活用した今回の事業の可能性を熱く語り、「資源再生の未来を構築していきたい」と抱負を述べた。

ついでに概要説明を行い、水木社長も「アルミ缶を回収して水素をつくる原料にすること、(多くの人)に知ってもらいたい。資源の有効な活用に関心を持ってもらいたい」と述べた。

一例として、木更津市の人口十三万六千人で、年間五〇〇万のアルミ缶が回収されたとして、これをすべてアルミ水素に変えて、さらに電力にすると、約一〇〇〇MWhの電力が得られると試算。これは電気自動車一万台が一〇〇〇km走行できるほどの電力で、

あり、一般世帯では約三千世帯が一月利用する電力に相当する」という。

アルハイテック㈱は、「アルミ水素で未来を拓く」をスローガンにカーボンニュートラル社会の実現に向けて、廃アルミのセカンドライフを提案している。昨年七月には、アラブ首長国連邦(UAE)での岸田総理の初の経済ミッションに同行し、ムハンマド大統領と面会。続く十二月には同国で開催されたCOP28に出展し、スピーチも行い、日本国内のみならず海外からも注

目を集めているオンラインの技術を持つ企業(写真はパトナーシップ契約締結式で契約書を取り交わす左が小高社長、右が水木社長)

目集めているオンラインの技術を持つ企業(写真はパトナーシップ契約締結式で契約書を取り交わす左が小高社長、右が水木社長)